繪本野山草　五

畫本野山草巻之五目録

十様錦　鳳来紅　荷葉めぐる

荷葉盛　蓮花盛　蓮も風吹

蓮房　小て海里　大まより

菫　仁榆草　九輪草

覆盆子　水仙

牡丹花（ぼうたんくわ）

苍ヒラ内外トモ
モトヨリクヽ

牡丹芽出（めだし）

地ニクレキ
ウスワウド
カゲ
ヱンジクヽ

古木ハ子ツミグ
スミカスリ朱スミ
クヽ

牡丹花瓣（ひとへ）

花苞（ハナツボミ）

牡丹臺（うてな）

白ハサキヨリエンシクヘ

擬宝珠（ぎぼうし）

茅びやう

麒麟草（きりんさう）

牡丹花（ぶうたんくハ三月中旬咲）

花は大白花にて黒きは紫なるあり紅は紅の赤の外
百しる牡丹は惣弁を九品に分つべし九品とは六
一位二位三位四位又五位六葉七葩八葩九葩なり一は位としては其品の外
を二位来るを二位三位といふ也四位ハ其の外也○二品ハ紅といふ
を又枝あり冨貴艶麗厳恪礼雑枯稿なり冨貴艶麗をよしとい○
二つ色に二様を咲出あるとの枝まり八珠も
環も咲くし珠も咲くハ一つやらし又気まり八つ
もありべし砕ありきを碎きあれハ上弁の外すなど○四は重る
又一葩より十又葩まで一重とい廿葩より四十葩を八重とい四十
又葩より百葩までをいふ百葩の外万重といふ八重とい千葉をを
ようしといふ○又うり実に形容大小なる下赤白き白は黄白は紺色
白き赤き紫赤木瓜色淡赤紫あり黒は紫黒色あり形小雛子とも
実のうら又ありきて也七分はりてうり白は紺色なりハ濃く
小雛子とようしといふ形実弱実ともいふ○ふかり葉を

さく〴〵黄なり淡濃あり少さき紅あり薄まじりてかさなりしと云
○七は花ハ厚き多葉鉄色摺綿のひらめくつかむ厚き多くして
つかむさとよしといふ○八ハ葉ハ大小長短頻縮無色尖ありも
いろ〳〵黒環浅濃あり細長うしてつまりさまとうしといふ葉の
ながとよしといふ○九ハ花は張恵なるを取り屈曲なるもあり
ろひやうによりそく恵するをすがとよのびやうなるをよしといふ

賈躭花譜云牡丹唐人謂之木芍藥歐公牡丹譜有九十餘種又易州進奉十九種今時則名類又多矣坡云看牡丹法當在午前過午則離披此花分接當於秋九月移植當於開花時舒元輿有牡丹賦丘璿有牡丹榮辱志

開元遺事 牡丹花木妖明皇時沉香亭前木芍藥盛開一枝兩頭朝深碧暮深黄葉粉晝夜間香艷異帝曰此花木妖也賜楊國忠

翁草（おきなぐさ）

釣舩草（つりふね）

茎地ヱシゾクヒラ円
ソコヨリキリクマトル
スヒヱシ日ホシ

松虫草（まつむし）

黄色ノ茎ハ
地キ仕立ハ右日

草はんや　花蘭

薩摩ハ綾草ともいふ蔓草なく六七月穂を出して淡紫の小さき花さく百合に似て星のし又むらさきてらくる
ありて葉は立ちなふとも女ちからしけのごとし此草ハあつくつりとれば
乳汁出る又女ちからしハ乳汁すし花穂さき晩秋に実を結ぶ紙麻売
に似たり細そきに多く自然白紫出るこち売龍胆のごとし世にさくきたに
なれバ二三寸許小なるハ寸余くさ花称書にいふ白めかき名称薩麻売とあやまく
称とれとおなき花称を画に見ふ又さきの事ありとなり

玉簪花　ぎぼうし　一名ハ白鶴仙

穀雨後葉の中に白のつぼみありふりてごぼうのやうに
とうふ葉ふりて班ありぶんてかいらしいさん
らんあり葉ふつて〇のつぼうしよりいろくさ花あり
そのびんざしのごとく至極てすく一種葉ふ極ていろ
そろぐくつてあるもとなりてるそさんらんてけしてるそのいろ白
きふぢいろるえ大ざかりしハちうき賞へざかり小ざかりしハ古跡に
よりくいろく作りし山草なり

玉簪花一名白萼能消骨鯁不可着牙着牙則

裂碎有紫黄二色紫者多黄者佳種不多有

るびゆう　びゆう柳に似たり花黄色にして葩みつひらく葉又萱草の
ごとしるいしべ短く此花に似たり葉ふさこざり葉に似て葉ふむらひ
あひあかと茎葉ふつまくしりまへ高三尺計より六月花を咲

きりん草　葉ふりんそう葉のごとく少ちひさくして葉ふれふちにきざみあり
鋸歯葉　花のいろ黄にして一枝よつさきて葉ふちぶとし花とも
景天　べんけい草のごとくみりすむる葉ふ二寸ほり清く

翁草　白頭翁　なうれ芽ぶし中さ白うして毛をかさね〇風形にてまくたるる又
虎班をせうぐひげのごとくみりすむる葉ふ三寸ほり清く

釣船草　花八九月に　葉ふ形ち菊に似てる似くきれあさく葉ふちそしくこき
紫色にして葉ふのうらより一すぢよりのぶそさいと
さがりてその子をつるすつり船のごとしそれゆへちとりうぶとをき
様ふしうらじく色にて今黄色極りて又紫をむる又白きもとなり

松むし草　葉ふよもぎのごとく茎ふとくむうを裁色花をさむさく
又いそのざくともいふ一名玉毬花七八月よりなりすごくそれなる

風車

冨貴艸（ふうきさ）

葉鶏頭

十様錦

葉地エンシク

一カキ

鉄線蓮(てつせん)

からまつ
唐枩草

大から松

がんらいこう
鴈来紅

葉地エンシク

風車（かざぐるま） むら三月 うへる

花のかたちくるまのごとしはなびら八枚にして うらうりしんきをむよ数多し白一重なるもむらさき ひとへむらさき一重うす色一重又むらさき白八重 たるひハゆさ白き蘂ありまた爪るかたちに蘂くさきがりも 花よ実りしてつくる大さ四寸あまり

鉄線花（てつせんくわ） 三月りすうへる

花ぐさくるまのごとくまくちいさく志あり 花まくの蘂うちは紫のあまりありりけさて又白とうちはと のさてさけあり又纒枝牡丹といふハてりせんの花にあり これ白く葩八りにして白く上すし長まのせんむの大さ二三寸

唐松草（からまつさう） 三月ふ三月むへる 又 秋から松

花れさ白くからうら松のごとし 茎よくろくうへる 又紫をたり茎ごら白秋から松よりハ志まやかなり又 白くし紫秋うりありむ花を白のから松よりハ まうしありし大かうまり草といふもあるごら大よつらの びろるまんとのふ又草かうれる色ふさとしかりあり

富貴草（ふうきさう） 三月 うへる 金鳳花（こんぽうげ） あり

花れりしうら梅のかたちのごとくしてのび直

金黄いろ大つてん葉ふるくのかたち似て尤くあり しきょくなく葉むのふるなり 上るかつ八重もあらさる のありへとのへんまことさりまくへんむさうけとりふ

鶏頭（けいとう）

鶏冠紫ものものけいとう花ハ白く黄紫ありて のミ種あるく紫くありへ白くまぐらの形ありなるさまかりハうろく花 これ中白く黄紫よりうそ紫ありうる又もつうくもあるく まバさげいとうとうに花多さハ紫かるも白かれのまぐらうき七八寸

がんらいこうハ葉とうふ葉けいとうへとりかハあやまりしさかハうるか そく葉の色よく実をむすぶでさいとうの花形ハけいとうのごとく けいとう花のいろいろ唐来ると八唐まる附子尺する志一名老少盛ハ作

老少年（らうしやうねん）一名（いちめい）ハ秋紅（しうこう）雁来紅（がんらいこう）有作詩曰（ありさくしにいはく）

翔雁南来塞草秋。未霜紅葉已先愁。綠

珠宴罷帰金谷七尺珊瑚夜不収

蓮花盛（れんくわさう）

荷葉盛（かえうさう）

花ウスベニノ仕立ハ
エンジグサキヨリエンジ
リヽ内ソト氏同
又モトヨリゴフンスレ入

蓮も風吹

蓮房（れんぼう）

白
キ
白

キ
クサクシルクヽ
四バン六セウ

小繡毬（こでまり）

大てまり

れんの花
一名荷葉
一名ふよう
四五六七月
唐蓮

花数多しつま紅或ハ座ある又極紅白色を金糸れんといふ
一りんといふをはなびらふさちゞのごとく数あつまりて天竺れんあり
色白にしてはなびらほそくつぼみ小く葩折入万弁のごとしこれを白
花又白に茎あかくちいさくつけ大茎そ○九茎八まへうさ紫
二りんならぶ三りんならぶものつぼみを出し茎にまさうへてむを宿く
を宿すむとからく房しまうりのごとくさくらうれたるが
うくとりふ又二りんなるは後に出てものうちよりおほく実くと二りんとりふ三がいならぶ八二
りのよまさなぶ立とりふ三がいならぶつぼみとをもしてなふ茎して宿をひらく
て房して茎荷なふを画八葉なふ茎ともしてなふのおしまるをとりしふ茎をむと画ハ
むの出まま葉をとりふ又蓮を画八茎房をなすくたけ葉をあけまおしまよりふ
或ハなむとくしてあさ茎房をも追て中宿芽出華盛房實飛此ニ過現来ト云

○爾雅ニ荷ハ芙蕖ナリ其茎ハ茄其葉ハ荷其花ハ菡萏其實ハ蓮其根ハ藕其中ハ菂○格物叢話ニ荷花重臺ノモノ雙頭ノモノハ以テ瑞トス又暁朝日ニ起夜ハ低テ水ニ入モノアリ睡蓮ト云荷花ヲ水芙蓉ト芙蓉ヲ草芙蓉ト云ナリ

荷一名菡萏一名ハ水芙蕖有千葉黄千葉白千葉紅有紅邊白心有馬蹄蓮子多而大有墨荷並佳種華山山頂有

池生千葉蓮服羽化鄭谷詩所謂太華峯頭玉井蓮是也南海有睡蓮朝日夜低入水歳有水則荷早發曾端伯以為浄友又有金蓮鍈線蓮白花大乙蓮花甚難開本如芭蕉葉如芋亦名観音芋青蓮或云即鍈線蓮晋佛圖澄取鉢盛水焼香咒之鉢中生青蓮花光色耀人四五月内開

小でまり
三月

花の色白にして形をてまりに似たり葩あつまりをやふ
さりやこまかなるのうちのくざりまへりまのごとく葉ふかくま
ついくたるうくとらりおるあまたやますかさみれしくまなびた
そびらる花陰くつらすくし又茎赤あるも八葉ふまつまもあり

たでまりを
一名繍毬三四月
彩團ハ大なるの名なり

なふあまへ対ひ出て形まろく大くちくこまかくゆるそう
楠の葉に似たり木の高さ丈余枝日あまへおほく実あふうをを
えまま花をとてまりのごとし葩中一ツにうりて又いわうる花一
つらんのうちら八白緑乃おほくひあり又或ハ紙のごとく花ようがりを
宿ほし花え小ふしてめ目或ハ大とりの和宿もくまし登不白中色紫究をと

繍毬花繍毬作花甚繁簇成如毬故以名用仙花接故枝易生

菫（すみれ）

化楡草（えびね）

九輪草（くりんさう）

覆盆子（いちご）

すみれ草
又三圓草（さんゑんさう）
大すみれ
菫菜（きんさい）
箭頭草（せんとうさう）

葉もすみれともかくれたるのしもいふ葉がちいさき花つる
のごとくまるきたふりくなるやうなふ小さくしおくさむらさき
花白くすみれのごとくにて花さく状そうろうて花なふかり
すみれの三種をあふるそあらんとのたり九花たりま
るにとつかまてあらとむしうさる白ありこる地丁（すみれ）と
又かうよ三圓草とよぶ葉のうち葉をあるハ別（べつ）乃
ことく葉とりて葉にりとをいふ事もおなじありり八九月ごろ咲

ゑびね草
山磁石（さんじしやく）

花穂（ふさ）ありし大ゑびね草とりて八花の色あか黄ずいなく
つうんあらまんゑびねハたまの色大ゑびね草に同し大
つうん大蘭京（らんきやう）も又花のいろ同じ全（ぜん）むらさきとりて八あかむら
さい様（うらべ）ねつやありたまのうち白（しろ）くもありあか黄く葉金と
いふ八あかびらき花ぶりして白くも同しいろおまうさし
むらさえびね八よるがれえるみうちもむらさきのかさりあり白
を杉みし葉ふゑびね八黄にまじさるりる花のうち中黄

うら白ともみ白し紅りんゑびねの花びらうつりよふにてし
あつくまた葉のゑびね八うい葉のおもてうらましてむらさきしゆうに同し
色薄（うすく）ゑびね八白ふ紅のぞうし入白ゑびね八むらさき白（しろ）しめまじ
れをたちなりむらさき白く白（しろ）さとぞうゑびねしうふ花
むらさきなかして白く紅の色さえと紅ゑびね草とりふまさる
雪白（ゆきしろ）あかねの浅黄ゑびね八秋ゑびね草あり斑（ふ）ゑびね八黄よし羞花
うつりあり紅によりしさく秋ゑびね八七八月にさくそれの
色薄ぶりて色香も同し花なふともみらいてさく白（しゆ）ふちがいあり

ゐつりん草
旌節花（せいせつくハ）

花のうちらさきて葉のごとくすく蓮（すゞびら）ありくちいさくちら
まりりさく花の三ふとく三のびらんくに咲いろ紫（だい）あり
白ねあるひ八ゆきあらげんじ又うたも咲りけあり地（ぢ）
おうして花びらふち白にとぞんし九輪草（くりんさう）とりふ三つ輪なれさく

いちご
覆盆子（ぶくぼんし）

花梅のたきのごとし小つりん黄いろきあ白き花家（ざんぞうけ）に實（え）を
覆盆子（ぶくぼんし）とりひなぶを菌蕈（ゆうらい）といふきいちごとも言いちごせいふ

水仙花

葉ハ蘭に似たり花のかたち金盞銀臺よくにたり花びら六ツあり
蘂ハ三角にして黄なり茎ハかたち韮に似たり又ハ一本に薄皮の袋に
包袋やぶれて花開く其色白ふしておしすゝめく中の一盞に三
五とも多く黄なる也八月より翌年の二三月迄も秋冬の水仙ハ花葉の中隠に
其外春の水仙ハ葉ふれてさけまくらん惣体葉はなを咲じて又秋の葉は
うけもし冬春の葉花ハさけうらじ只春の葉花手に手たゆらかし
すし然とも秋冬の葉ハ冬気を凌ぎて春をまち春へ水仙落
紹の所ふくろより金盞銀臺を出し花春を待て春の葉を成して一盞
とゆくり合せて継をもむすひつらねて花あり○揚誠斎云世に水仙とい
今金盞銀臺とて尤盞草葉の時の中に一酒盞を深黄にして金色なくふ葉
のそれ八乃まこれ水仙也○山谷云一名を仙骨とは水仙ハ花ふあしく仙人
乃骨象あらく香に仙骨とらふ△仕立花ゴフン中筋円中筋ノ両ワキ白緑ニテ
クマドリツケニヲイ皿ニヲイノ玉ゴフンソコ白緑ニテクマドル又惣花ヘキラニゴ
フンヲ加テカケル中玉卜皿トモシワウヲカケル其莖葉トジクトハ四バン六セウノヌルクサ
ノ汁クマトリシワウヲカケルハナヲツヽム袋ゴフンスリウスワウドヲカケ朱墨クマキラカケ
筋カキ朱墨葉ノ子ニキゴフンスリキラヲカケルクサノ汁ニテ筋カク

浪華後素軒橘保國畫圖

彫刻
大坂 藤村善右衛門
同 藤江四郎兵衛

寶暦五乙亥年八月吉日

書林
大坂心齋橋順慶町柏原屋
澁川清右衛門板